

(17) 蘇聯邦部

F-0066



號報告ヲ改正シ、本年上半期ノ航路ヲ左ノ通り定メタリ。

一、アドリヤチック、黒海定期線 A
 寄港地 從來通り
 航海數 二週一回

二、マチレン、黒海線 A
 寄港地 マゼノア、マオデツサ 間往復
ヤコンスタンツア、マワルナ、マブルガス、マスタ
ンブウル、マビレイ、マネアポリ、アママルセイユ
 航海數 四週一回

右ノ外 マトリエスト、マノウオロシイスク (黒海東廻) 線及 マゼノ

B11

通商局

公第二三號

昭和七年三月二十九日

在オデツサ

領事 田中文一



外務大臣 芳澤謙吉 殿

(當港出入伊國船航路ニ關スル件)

伊本利ニ於テハ這般各汽船會社ノ合同行ハレ、航路ヲ有セルマロイド、
 トリエスチノ、ママリチマ、バイタリアナ 及 ヤシトマル ノ三會社
 船合同シ、曩ニ經營セル三定期航路ヲ昭和六年六月二十日付公第五〇

第一課

昭和七年四月拾八日接受

6

年	入	出	客	貨
一九三〇年	一〇二	二五四	一三四	二五八七
一九三一年	一二二	三一三	一九〇	三五九五
一九一三年	七五	一二九	一	
一九二八年	五一	九七	一〇二	二三八
一九二九年	六〇	一二〇	一七一	三三六
一九三〇年	一〇三	二五九	八一	九五〇
一九三一年	一二七	三二三	一四八	七三〇

本報告申進不
本備寫送付先 在伊大使

B11

年	出	入	客	貨
一九二八年	五一	九七	一五三	二三五
一九二九年	五八	一一五	二三四	五六三

貨物千噸單位以下十位ハ四捨五入

B11

ア、ウオロシイスクノ二線アリ。
 當港伊木利間ノ定期航路ハ、右航路改正ニ依リ昨年上半期ト航海數ニ於テハ變化ナシ。尤モ下半年期ニハ又改正セラルヘシ。
 尙當港ニ於ケル伊國船ノ活動ハ逐年發達シ、當港出入諸外國船中第一位ヲ占ムルモノナルカ、其定期船及備船等全部ノ出入港船舶數並ニ輸送貨客ヲ「ソウヴェト」當局ノ調査ニ依リ示セハ左ノ如シ。十單位登簿噸數及貨物千噸單位以下十位ハ四捨五入



海外經濟事情
昭和 7. 5. 9
第 5. 年 第 1 8 號

後
海外經濟事情

憲
案

文書課長
公 信 案

文書課發送 昭和七年四月廿日發送済

主 通商局長 (起草昭和七年四月廿日)

管 第二課長 (附屬書)

受 信 逕信

人 名 (信) 廣崎 船高 長

件 名 (イ) アイソヤ 港出入件 國船航路

件 名

名 込 綴

發 信 人 名 高富 通高 長

本件ニ關シ(彙ニ) 由附通上機密令第
今般重主在アイソヤ中領事

爲御參考右茲ニ通報ス

(本信寫送付先)

昭和七年三月廿九日 附在 アイソヤ 館來

並附屬書 修正通作成 添付ノコト

公 信 案

外 務 省

別紙

正校(原稿)

倉田(淨書)

倉田

倉田

22 21

記

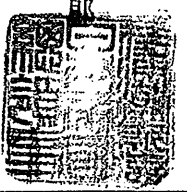
歐米局

普通第 64 號

昭和八年二月九日

在浦潮斯德

總領事 山口 爲 太



外務大臣伯爵 内 田 康 哉 殿

最近ニ於ケル浦潮港狀況報告ノ件

今冬ハ寒氣例年ニ比シ嚴シカリシ爲浦潮港ノ氷ハ其ノ厚サ一「フイ
ト」以上ニ達シ來港諸船舶ノ自由航行ヲ全然不可能ニ陥ラシメタ
リ然ルニ本冬ハ浦潮港出廻北滿特產物著減セシ結果右積取船ノ廻港
少ク往來汽船ノ數例年ニ比シ著減セル爲浦潮港内外ノ氷ハ右往來船

在浦潮日本總領事館

通商局

船ニ依ル影響ハ殆ント之ヲ受クルコトナク一ニ碎氷船ノ活動ノミ船
船ノ普通航行ヲ保證シ得ヘキモノナル所冬期港務上最重要ナル役割
ヲ演スル碎氷船ノ活動ハ石炭不足ノ爲數隻ノ碎氷船ハ緊船ヲ餘儀ナ
クセラレテ活動ヲナスコトヲ得ス「ダヴィドフ」及「カザツク、ボ
ルヤコフ」ノ二隻ノミ辛シテ碎氷作業ヲ續ケ來リタルカ之トテ石炭
待チノ爲連續シテ活動スルコトヲ得ス且兩船トモ使用石炭ノ質粗惡
ノ爲蒸氣一同昂ラス十數分間活動シ一休憩ノ上更ニ蒸氣ノ昂ルヲ待
チ活動スルヲ常トシ居リタル爲港内碎氷作業遅々トシテ拂ラス部分
的ニ碎氷セラレタルモノハ北風吹ケトモ沖ニ流レ去ラス其ノ儘直ニ
密着スル爲所ニヨリテハ水二重三重ニ重ナリテ其ノ厚サ數尺ニ達ス
ル所アルニ至レリ。

在浦潮日本總領事館

之カ爲本年一月初旬ヨリ昨今ニ至ル迄浦潮來港諸船ハ悉ク港外ニ
一時立往生スルノ已ムヲ得サルニ至リ普通港口ヨリ埠頭横着迄五、
六時間ヲ要シ碎氷船ノ都合惡シキトキハ半日以上ヲ要シタルコ
トアリ又出帆ニ際シテモ同様ニシテ敦浦連絡船天草丸ノ如キハ客月
二十五日及本月一日ノ兩度碎氷船ノ援助遅レタル爲五、六時間遅レ
テ出帆シタルカ如キ有様ナリキ。然ルニ昨今碎氷船ハ良質ノ石炭ノ
供給ヲ受クルニ至リタル趣ニテ本格的ニ其ノ碎氷作業ヲ開始セル爲
港内ノ狀況漸ク一變シ本月八日出帆ノ天草丸ノ如キハ支障ナク出發
スルコトヲ得タリ又藝ニ北「サガレン」方面ニ出動シ居リタル強力
ナル碎氷船「ドブルーイニヤニキ」テイチ」號ハ小樽ニ於テ良質ノ
石炭ヲ積ンテ最近來浦スル筈ナルヲ以テ嚴寒ノ頂上ヲ越コタル當地

在浦潮日本總領事館

ノ條件ト相俟チ浦潮港内ノ碎水作業ハ其ノ面目ヲ一新スルニ至ルヘ
シト推測セラルルモ萬一其ノ情勢舊態ヲ脱セス醜態ヲ續クルニ於テ
ハ一時船舶關係者間ニ問題トナリタル浦潮港行保険料金引上ノ如キ
モ再燃スルニ非サルヤト思考セラル

右御参考ノ爲報告ス

本信寫送付先 在「ソヴィエト」聯邦大使

在浦潮日本總領事館

昭和七年「オハ」假泊港出入艦船統計報告ノ件
昭和七年「オハ」假泊港ニ出入セル艦船ニ付別紙統計ヲ作成シタル
ニ付御参考迄右茲ニ送付ス

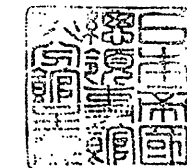
本普通第一六號

昭和八年二月十日

在オハ分館主任

外務書記生多賀谷

靖



外務大臣伯爵内 田 康 哉 殿

昭和七年「オハ」假泊港出入艦船統計報告ノ件

昭和七年中「オハ」假泊港ニ出入セル艦船ニ付別紙統計ヲ作成シタル

ニ付御参考迄右茲ニ送付ス

本信寫送付先 在蘇聯邦 大田大使

在アレクサンドロフスク日本總領事館オハ分館

F1504

在亞港 佐々木總領事

在アレクサンドロフスク日本總領事館オハ分館

蘇聯邦	日本			國籍船	種	隻	噸	登簿噸	入
	汽船	汽船	單艦						
船	沿岸航路船	外國航路船	特務艦	船					
三	一五	三二	一四						入
一	七九五	一八七九二	一						
一	二四〇	一一三、三三三	一						港
三	一五	三二	一四						
一	七九五	一八七九二	一						出
一	二四〇	一一三、三三三	一						

昭和七年「オハ」假泊港出入艦船統計

在アレクサンドロフスク日本總領事館オハ分館

文書課長

文書課發送 昭和八年貳月廿八日發送済

淨書 (分)

正校 (原稿)

(淨書)

主 歐米局長 了 主 第一課

昭和八年二月廿五日起草

歐一機通合第

五六一四號

昭和

年 月

日附 附屬

昭和八年貳月廿七日

迎信省管船局長

東郷政米局長

満鉄東京支社長

政米局第一課

名 人

名 件 録 記

最近ニ於テ、滿洲港状況ニ関スル件、

本件ニ關シ今般在滿洲新金山總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス

本信寫送付先

(昭和八年二月九日附在、郵送 館來(電)機第 七三號寫真附書)

公 信 案

外 務 省

要一

長

a B

F15.0.4

別紙

右の港情を船舶収次係に報告す

27 74

道三心

歌本

機密公第一〇八號

昭和八年七月九日

在武市
領事代理 豊原 幸夫

外務大臣伯爵 内田 康哉 殿

武市ニ於ケル船舶冬泊並一九三二年乃至
三三年結水期間ニ冬泊セル汽船及舢板其
ノ他ニ關スル件

滿洲事變以來當地當局ハ萬事頗ル秘密主義ヲ執リ居ル爲メ各種調
査上極メテ困難ナリ從ツテ的確ナル資料ヲ得ルコト殆ント不可能
ナル次第ナル處最近本官偶然ニモ當市造船並修理工場附屬繫船所

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

昭和八年八月 七日 接受

武市に於ける船舶冬泊並一九三二年乃至三三年結水期間ニ冬泊セル汽船及舢板其ノ他ニ關スル件

ヲ觀察スルノ機會ヲ得タルニ付標記ノ件調査ノ上別紙ノ通何等御
參考迄ニ報告申進ス

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

武市ニハ帝政時代三個所ノ汽船冬泊所ヲ有シタリ即チ其ノ一ハ「ゼーヤ」河ト黒龍江トノ合流點ニ位シ（帝政時代ノ交通省所管ノ冬泊地）其ノ二ハ右交通省冬泊地ノ外側「ゼーヤ」河邊ノ小島ニ設ケ其ノ三ハ「ゼーヤ」河ト黒龍江トノ合流點ヨリ武市「マヌチエルスカヤ」街ニ亘ル地點ニ在リタルカ現在ニ於テハ前記其ノ一ト同位置ナル「ブラゴウエシチエンスク」船舶建造修理工場（別稱「レンザトン」工場）附屬ノ繫船所ノミヲ汽船及ヒ「メルヂ」ノ冬泊地トシテ使用シ居リ其ノ二、其ノ三ハ冬泊地トシテ設備破損ノ儘放任シアリ

而シテ一九三二年ヨリ三三年ニ亘ル冬期間ニ「レンザトン」工場附屬繫船所ニ冬泊ノ爲メ集結セラレタル大小各種汽船ハ約二十六

在ブラゴウエシチエンスク日本領事館

隻（各人ノ言ヲ綜合シテノ推定數）ナリト言フ右冬泊シタル汽船ノ内主ナルモノハ航行程ニ黒龍江ヲ航行スル霧汽船「カリーメネフ」號（乗客定員三百五十人荷物積載量二萬「ブード」）「カリーニン」號（乗客定員前同積載量一萬五千「ブード」）「チチエーリン」號（乗客定員前同積載量二萬五千「ブード」）「イリーチ」號（乗客定員前同積載量四千「ブード」）及「ゼーヤ」河航行ノ中型客船「スターリンダブード」號其ノ他數隻ノ客船ナリ又ニ「バルヂ」ハ一九二八年頃迄ハ大小合セテ九十四隻冬泊所ニ集結セラレタリト言フモ昨年ヨリ本年ノ結氷期間ニ冬泊シタルモノ大小合セテ約二十隻ナリシト言フ而シテ右ノ貨物積載量ハ六千「ブード」乃至三萬七千「ブード」ナリ

在ブラゴウエシチエンスク日本領事館

尙客月十五日「レンザトン」繫船所ヲ觀察シタル處當日繫船シア
リタル船舶ハ「ゼーヤ」河航行ニ用フルト稱スル中型客船「レ
ニングラード」號「ハリコフ」號「スターリングラード」號其ノ
他小型汽船七隻及老朽船ト思ハル、大型汽船一隻ヲ目撃セリ又本
繫船所ハ天然ノ地形上ヨリ見レハ理想的ノモノナルモ設備ノ點ヨ
リスレハ完全ナルモノト言ヒ能ハサル印象ヲ得タリ

在ブラゴウエヌチエンスク日本領事館

廿祥文

各國港務出入船舶状況報告推定
昭和八年十月拾六日接受

本普通第一四二號

昭和八年十月二十五日

在「オハ」

分館主任 村瀬 悌二



外務大臣 廣田 弘毅 殿

昭和八年「オハ」假泊港出入艦船統計報告ノ件

昭和八年中「オハ」假泊港ニ出入セル別紙艦船統計表御参考迄茲ニ

送付ス

本信寫送付先 在「ソ」聯邦 大田大使

在亞港 高山總領事館事務代理

在アレクサンドロフスク日本總領事館オハ分館

昭和八年「オハ」假泊港出入艦船統計表

蘇聯邦	日本			國籍	船種	入		出	
	汽船	汽船				雙數	總噸數	雙數	總噸數
		航沿路	航外路						
三	一二	三四	一一	三	一一	三	一一	三	一一
	六三六	二〇五、二〇一			一九二	六三六		一九二	二〇五、二〇一
		一一四、八八三							一一四、八八三

在アレクサンドロフスク日本總領事館オハ分館